

Heartful Day

北条高校人権委員会
平成26年5月21日

No. 80

人権映画鑑賞会について

今回は明日5月22日(木)に実施される人権映画鑑賞会の映画『西の魔女が死んだ』について紹介します。



あ ら す じ



中学に進んでまもない夏の初めに、学校へ行けなくなったまいは、森で暮らす”西の魔女”のもとで過ごすことになりました。西の魔女とは、まいのおばあちゃん。大好きなおばあちゃんから、「早寝早起き、食事をしっかりとして、よく運動すること」が、どんなに大事かを教わります。まいは戸惑いながらも、料理、掃除、洗濯、庭造りと、日々励んでいくが、実はその生活は、”魔女修行”の始まりでした。西の魔女と呼ばれるおばあちゃんと少女との、驚きと愛に溢れたかけがえのない時間が始まります。

おいしいワイルドストロベリー・ジャムの作り方、ゆっくり眠れるおまじない、人が死んだらどうなるのか、そして、秘密のメッセージとは・・・。”魔女修行”が訓えてくれたたくさんしたこと。

ミラクルな愛が届く、
幸福感に包まれたラスト。



西の魔女とまいの約束

西の魔女：「おばあちゃんが死んだら、

まいに知らせてあげますよ」

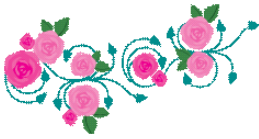
ま い：「どうやって」

西の魔女：「魂が身体から離れましたよって

証拠を見せてあげましょう」

ハートフルでワンダーな世界を誕生させたスタッフ・キャスト

この映画のセールス・ポイントは、フレッシュで個性的なキャストです。まず、主役のおばあちゃんに、幼少時代を日本で暮らした経験を持つアメリカ人、サチ・パーカー。彼女の清らかな日本語と、全身から溢れ出る暖かさが、作品を優しさで包み込みます。少女まいに新人、高橋真悠。成長の過程で大きな壁にぶつかってしまう少女という難しい役どころを、凜とした眼差しで繊細に演じています。さらに、まいのママに演技力抜群の人気女優りょう。パパに日本映画界に欠かせない個性派・大森南朋、郵便屋さんにベテランの高橋克実、ゲンジさん役に多才な木村祐一と、ユニークでバラエティーに富んだメンバーが、ハートフルでワンダーな世界を作り上げています。



原作者からの言葉

試写を拝見して、冬の午後の日だまりを思いました。晴れた日の陽射しが、木々の枝の合間を抜けて、柔らかい腐葉土ふようどと乾燥した落ち葉の上につくる、午後の日だまり。

お話は初夏のできごとだけれど、暖かい、けれどももひそかな生命力を感じさせる、日だまりのような映画になりましたね。ご完成おめでとうございます。スタッフの皆様かみの誠実さとひたむきさには、頭が下がる思いでした。この映画の醸し出す日だまりの暖かさが、それを観る方々の胸の中にも灯り、何か不思議な、生命の力のひとつとなって、働いていきますように。

梨木香歩



次回の放送は、6月25日です。お楽しみに…



お願い



今日の放送を聞いて生徒の皆さんの感想や、この資料をご家庭に持ち帰ってご家族の方と話し合ったこと、ご感想などをお寄せください。提出は、ホームルーム担任まで

----- 切り取り線 -----

第1回ハートフルデー

()年次 生徒 or 保護者

